

会長挨拶

—言葉や活動をゆたかにする飼育体験—

宮下英雄



第9回全国学校飼育動物研究会が、「言葉や活動をゆたかにする飼育体験」を研究主題に掲げ、日本小動物獣医師学会の年次大会市民講座と一緒に、ここ椿山荘にて開催できますことに、関係各位のご協力、ご支援、ご尽力に感謝を申し上げます。特に、日本獣医師会、東京都獣医師会の皆さまをはじめ、文部科学省、東京都教育委員会、文京区教育委員会の関係各位の皆様方、並びに、全国規模の組織で研究運営にご尽力されておられます小学校校長会、幼稚園園長会、理科教育、生活科教育、道徳教育、特別活動などの各教育研究会の関係各位の皆さまには、ご後援をいただき多大なご支援をいただき開催できましたことに、改めて感謝を申し上げます。また、本日は、お忙しい中、ご臨席を賜りましたことに、重ねて、感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、学期末のお忙しい中、そして、外の気温が30度を超える猛暑の中、全国各地からご参集くださいました多くの皆様方にも感謝を申し上げます。皆様方からの貴重なご意見もいただきながら、実りの多い研究会にしていきたいと考えます。宜しく御願いを申し上げます。

この研究会は、発足以来から、日本の将来を担う子供たちの心身が、「より豊かに、より健やかに、より逞しく」成長することを願い、動物が持っている秘めた力、すなわち、子どもに与える感化力や影響力を、教育活動に積極的に取り入れようとし、動物飼育の実感体験を通して、

情愛豊かな子どもの育ちの変容の成果とその課題を、実践事例を通して、発表を続けてまいりました。

その間、動物飼育に関して専門家不在である学校・幼稚園・保育園では、獣医師の先生方の多大なご支援、ご指導をいただきながら歩んで参りました。学校の飼育現場に入ったとたん、獣医師の先生方から見れば学校側の飼育に対する知識の無さや、治療に対する消極的な態度に、憤りをもたれたこともあったと伺っています。しかし、指摘し合っても、学校の体制がすぐに変わることには期待が持てません。指摘や批判を繰り返せば、子ども達が可愛がっていた動物が、学校からいなくなる恐れさえもあります。それよりも獣医師との連携によって、教育効果を大きく高めることができたという実践事例を語り合い、広め合うことによって、獣医師の先生方と教育関係者が一体になって子供の成長に寄与しようとする営みが、行政関係機関のご協力をいただきながら、全国各地で、その広がりが見えてきました。この研究会が、その現れであり、今日の獣医師会の年次学会における市民講座との共催であると考えます。

この研究会は、第1回から、今日まで、動物の持つ力、秘めた力を教育に導入し、学校・幼稚園・保育園で、動物飼育を通して、命の実感にふれさせながら子供の心の変容に迫り、その実践を通して、発表を続けて参りました。研究主題、大会主題をそのときの、教育課題、教育思潮などを考慮し、設定に努力をして参りました。紹介させていただきますと、第1回は「命の実感をあたえ情愛豊かに育てたい」、第2回は「子どもが変わる学校飼育動物」、第3回は「幼稚園、保育園・学校で命を実感できる飼育を」、第4回は「子ども達の心を動かす動物飼育」、第5回は「感性を揺さぶる飼育体験」、第6回は「うちの学校・園の動物と教育課程」、第7回は「子どもの優しさが見える学校の飼育動物」、第8回は「新しい教育課程と動物飼育、命の教育」をテーマにして研究発表等をして参りました。テーマを集約致しますと「命、心、教育課程」に集約できます。

さて、今回、第9回の大会主題は、「言葉や活動を豊かにする飼育体験」といたしました。いままでの主題と比較いたしますと、直感的に見てかなり方向性、指向性をもち、異質のように見えますが、先ほど述べさせて頂きましたように、この主題設定に当たりましては、今日的な教育課題や教育思潮を、かなり焦点化して設定致しました。ご承知のように、来年、平成21年度から、新しい教育課程、新しい学習指導要領によって、日本の教育が展開されます。このことについては、現在、社会科の教科の解説を巡って、隣の韓国と見解の相違につき、報道が毎日のようにされていることからご理解をされていることと思います。

この新しい学習指導要領・教育課程を編成する根幹となりましたのは、子ども達の学力の実態を把握し、学校現場に於いて、きめ細かく対策を講じることと、学力の質を国際標準学力を意識したものに転換していくことが求められてきたことによります。その調査となりましたのは、40年ぶりに開催されました、全国学力・学習状況調査の結果と経済開発機構OECDの読解力、数学的、科学的リテラシーの調査結果です。よく耳にいたしますPISAの結果です。そのほか、国際教育到達度評価学会IEAが実

施致しました算数・数学・理科の到達度に関する国際比較調査TIMSSの結果です。これらの調査結果を総合的に判断するとともに、中央教育審議会等の審議報告・答申、新学習指導要領の総則等から、今回の教育課程のキーワードを探しますと「言葉と体験」という2つの文字が浮き彫りになってきました。動物飼育という体験活動を通して、このキーワードに迫ることができると考えました。体験と関係づけた言葉は、考えを深めます。思考の基礎をつくるのは言葉です。言葉には、情報を伝える働きと心を伝える働きがあります。動物飼育という教育の場を通して、この教育課題の解決につなげていきたいと考えます。これからご講演をいただきます国立教育政策研究所総括研究官、鳩貝太郎先生、同じく、ご講演をいただきます白梅大学学長汐見稔幸先生をはじめ口頭発表並びにパネル発表をいただきます発表者の皆様方に、ご示唆をいただき、フロアからのご意見等もいただきこの主題に迫っていきたいと考えます。皆々様に宜しく御願いを申し上げ挨拶といたします。

(聖徳大学人文学部児童学科教授)

